

# まゆだま

2012. 6. 5発行  
No. 355



連絡先：高田（八王子一小）  
東京歴教協 八王子支部

～ 先月の金環日食は御覧になりましたか？前回、同じように日食が日本全国広範囲で見えたのはなんと1080年のことだったそうです。「後3年の役」が起こったのが1083年ですから・・・さあ、そんな歴史を感じながら、2012年の6月も、皆様の参加を西八王子でお待ちしております。～

## 5月例会報告：「拝島宿を歩く＋北泉寮を観る」

新緑の中で始まった5月例会は、まず多摩川河川敷を歩き、拝島宿を歩き、その後で啓明学園の全面的な御協力を得て、敷地内にある東京都重要文化財指定の「北泉寮（ほくせんりょう）」の見学をさせていただきました。



集合は、啓明学園の数寄屋門前、これが学園の正門だそうです。新卒から25年目以上のベテランまでがそろった参加者は、その門の前で今日の行程を確認しました。このような門が残っているのも貴重です。拝島には歴史学習のネタが沢山埋まっているような予感がしました。さあ、スタート！

ちょうど1年前には、「八王子宿」を歩いたわけで、これで千人同心の日光への道をたどるきっかけのフィールドワークになりました。今では、八高線で15分程度の距離ですが、当時は多摩川に橋が架かっていなかったこともあり、丸一日行脚の時代でした。拝島という宿場町がどのようにでき、それが八王子宿とはどのように似ていて、どのように違うのか？参加者達は講師の栗原さんの説明に聞き入りながら、自分の足で、一步一步その跡をたどっていました。



へえ、ここに水門があったんですか？村の取水口だったと書いてある立て札の前に集まる参加者。手前には水神の碑が建っていて、多摩川は当時から貴重な水源であったことを教えてくださいました。でも今はもう使われていません。あ、地形の変化にも気付かされます。案外観ているようで観ていないのが私たち現代人なんです。反省！



少し高くなった住宅街の曲がり角、こんなところも教室になります。ここから見下ろすと何が見えるか？この道はなぜ直角なのか？そんなことも意識しないと何も感じません。栗原さんの一言で、その意味がわかってくるのです。同じ道が、行きと帰りではまるで違う見方ができるようになる。それが学びです。うん、学んだ確かに！



街道沿いを歩くと明らかに一軒だけたたずまいが違うお屋敷がありました。資料でいただいた地割りの古地図を見ると、確かにその名前が。そう、ここは昔、この村の代表者の家だったんですね。言われてみれば、蔵が有る家と無い家、敷地が同じ間隔になっている家とそうでない家、まだまだありますね。気付かないで過ぎてること！



明治の晩餐会ではありませんが、そういう雰囲気を出す北泉寮の食堂。こんなふりかえり会をしたのは初めてです。三井家の日常はこんなだったのか。拝島に戦前から建てられていたこの屋敷の価値がこうしてわかっていきます。毎月1回公開しているそうですので、今度は気の合う仲間とゆっくり来てみようかしら。素晴らしい！

